

学習プログラム開発をしよう

(E) グループメンバー (中村, 早瀬, 植本, 新谷, 虎尾, 石川)

テーマ 青少年教育

市の概要
A

個人の要望

- 年上の子が年下の子に面倒を見るような環境をつくる
- 子どもたちの居場所がほしい。
- 子どもたちの社会性が育てほしい。
- 親と子のコミュニケーションを強くする。
- 小学校高学年以上にも地域活動に参加してほしい。
- 仲間を集めて勉強やスポーツをしたい。
- 年をとっても安心して暮らしたい。
- 高齢の親に引こもりになってほしくない。

社会の要請

- 子どもたちに社会性を身につけ地域の担い手になってほしい。
- 世代間の交流を促進し、幅広い世代を地域に巻き込みたい。
- 中高年世代のうちに地域の担い手になってほしい。
- 孤立化している世代 (小さい子どもを持つ親、高齢者など) を地域のネットワークを使い守りたい。
- 緊急時のネットワーク作りをしたい。

行事などを通じて

地域課題

キーワード 孤立化の解消 ← 世代の分断化の解消

- 孤立化している高齢者、子育て世代、子どもたちがいる。
- 地域活動への参加が少なくなっている (町内会、子ども会に入らない) ^{よて} → 地域の世話の固定化
- 特定の世代 (主に小中高生の親世代) の参加がない。

学習目的

- キーワード
- 世代を越えたつながりを作る。
 - 地域の次の担い手を育てる。

学習目標

- 中高生に地域行事へ参加してもらうことにより、地域活動への意識を高めてもらう。

【学習プログラムを開発しよう!】

(E) グループメンバー (中村, 早瀬, 樋本, 新谷, 虎尾, 石川)

1 学習目的

- 世代を越えたつながりを作る。
- 地域の次の担い手を育てる。

2 学習目標

中高生に地域行事へ参加してもらうことにより、地域活動への意識を高めてもらう。

3 プログラム名

4 対象・定員

中高生 10名程度

5 参加費

(受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお算出の根拠も明確にする。)

参加費は無料。
出資金を集める。

6 事前に必要な知識や準備物

7 留意点

夏祭りの運営委員会には社長が出席する。

8 学習プログラムの展開

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標 (◎) 学習内容	学習支援者	学習場所	評価 (振り返りの方法)
★1回 6/0(日)	仲間作り モチベーション作り	◎ お互いを知り仲間意識を育てる ・オリエンテーション ・ワークショップ(夏祭り参加について)	公民館職員 地域の方 (祭りの実行委員)	公民館	アンケート 観察
★2回 8/14()	地域活動 への参加	◎ 夏祭り参加(出店とステージ出演) 今回は参加申込みなど事前の準備 (実行委員会への参加など)は公民館 サイドで行う	地域の方 (実行委員 や 青年部の方)	夏祭り会場	観察 聞き取り 祭りの参加者の 年齢構成を調べる
★3回 8/下旬	反省、振り返り	◎ 夏祭りに関する反省会 参加しての感想や周りの反響など 振り返りを行う	職員 地域の方	公民館	子供たちの感想を 聞く
★4回 8 ★6回	ワークショップ (1~3回くらい)	◎ ワークショップ ・会社経営のノウハウを学ぶ ・経済の仕組みを学ぶ ・今後の活動計画を立てる ・職場体験	地域の方 (会社を経営 している方 コンサルティング 会社の方 経営学者の方)	公民館 企業	企業の方への聞き取り 子どもへのアンケート
★7回 8 ★9回	会社設立	◎ 役割分担会議 → 社員の募集など → 運営企画会議 → 実行委員会への参加	職員	公民館	
★10回	地域活動 への参加	◎ 夏祭りへの参加 今回は企画段階から参加	地域の方	夏祭り会場	観察、聞き取り 祭りの参加者の 年齢構成を調べる
★11回	反省、振り返り	◎ 反省、振り返り ↓ 株主総会 ・代替え	職員	公民館	面談 地域の方をまじえ 報告会